

冬は感染症に注意!!

冬になると、さまざまな感染症が流行します。皆さんも経験したことがある風邪やインフルエンザをはじめ、他にもたくさんの感染症があります。それぞれの感染症の特徴を理解し、今日からできる感染症予防を実践してみましょう。

感染性胃腸炎

突然の激しい嘔吐や下痢、腹痛が主な症状。
発熱はあまりみられない。



インフルエンザ

急な高熱、全身がだるい、頭痛、咳が出るなどが特徴。特に、高熱が出るのが早く数日でピークを迎えることが多い。



マイコプラズマ肺炎



咳が長く続くのが特徴。最初は乾いた咳だが、だんだん痰が出るようになり、数週間続くこともある。発熱があり、長引くことが多い。

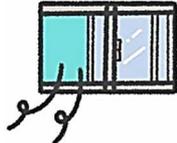
コロナウイルス

発熱、咳、倦怠感などが主な症状。人によっては、味覚や嗅覚の異常、頭痛、筋肉痛、下痢などの症状が出ることもある。症状は人によって様々で、無症状の人もいる。

今日からできる感染症予防



てあら
手洗い・うがい



かんき
換気



しよくじ
バランスのよい食事



てきと
適度な運動



じゆうぶん
十分な睡眠



リラックス

もし、いつもと体調が違うと感じたら、早めに病院へ行きましょう。

早期受診のすすめ

1

早期発見・早期治療

早い段階で適切な治療を受けると、早く回復し、重症化を防ぐことができます。「ただの風邪」と放置していると、思わぬ病気にかかっている可能性もあります。

2

周りの人にうつさない

感染症の場合、周りの人にうつしてしまう可能性があります。早めに病院で診てもらい、必要な処置を受けることで、感染拡大を防ぐことができます。

3

合併症を防ぐ

軽い症状でも、放置していると、他の病気にかかりやすくなったり、症状が悪化したりすることがあります。

「ちょっとぐらい大丈夫だろう」と軽く考えず、少しでも体調がおかしいと感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。自分の健康を守ることは、周りの人への思いやりでもあります。

もし、学校感染症に罹患したら…?

学校感染症とは、学校で集団的に発生しやすい感染症のことで、インフルエンザ、水痘、風しんなどが代表的なものです。最近では、コロナウイルスやマイコプラズマ感染症も学校感染症にあたります。これらの感染症は、自分自身の健康だけでなく、クラスや学校全体への感染拡大に繋がる可能性があります。

学校感染症に罹患した場合は、学校保健安全法に基づき、感染症ごとに決まった出席停止期間を経て、体調の回復または症状の軽快がみられてからの登校となります。

◆感染症ごとの出席停止期間の基準◆

インフルエンザ	発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで
新型コロナウイルス感染症	発症した後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで
その他の感染症	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで

*マイコプラズマ感染症はその他の感染症に含まれます。

発症日を入れてね。

登校再開日早見表

元気回復

	0日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
	日	日	日	日	日	日	日	日	日
新型コロナウイルス	★	症状軽快					登校再開		
	★		症状軽快				登校再開		
	★			症状軽快			登校再開		
	★				症状軽快		登校再開		
	★					症状軽快		登校再開	
発症	コロナもインフルもここは同じ / 基本「発症日を0日目として5日を経過するまで」						コロナは「かつ症状が軽快した後 1日を経過するまで」 インフルは「かつ解熱後 2日を経過するまで」		
インフル	★	解熱					登校再開		
	★		解熱				登校再開		
	★			解熱			登校再開		
	★				解熱			登校再開	
	★					解熱			登校再開

保護者と生徒の皆さんへ

感染症に罹患した場合には、学校への連絡をお願いします。また、体調が回復し学校に登校できるようになった際には、教務から「出席停止願」を生徒を通じて配布します。「出席停止願」の裏面には病院受診の際の領収書や薬の処方箋、お薬手帳など感染症に罹患したことがわかる書類のコピーを貼付してもらうことになります。病院受診が済みましたら、領収書等を捨てずに保管していただくようお願いいたします。